

新

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 広報誌
Hyogo University Public Relations Magazine

~nagomi~

さらなる飛躍に 向かって、真剣勝負！

いつも世界、地域を見据えた取り組みを

株式会社グロップサンセリテ取締役 松永 仁志 × 兵庫大学学長 河野 真
ワールドアスリートクラブ選手兼監督

学長座談
巻頭特集



vol. 11
2019年6月



●兵庫大学学長
河野 真

真剣勝負！

さらなる飛躍に向かって、

いつも世界、地域を見据えた取り組みを



●株式会社グロップサンセリテ取締役
ワールドアスリートクラブ選手兼監督
松永 仁志



2020年東京オリンピック・パラリンピック開幕まであと1年。来年、パラリンピックへの4度目の出場を目指す車いすアスリート松永仁志氏。現役アスリートであり、若手育成に情熱を注ぐ実業団チームの監督でもあります。地域の人々に支えられ、選手として指導者として前向きに歩み続ける同氏が、教育の世界にも通じる熱い想いを河野兵庫大学学長と語り合いました。



自分の可能性を広げる楽しさ

河野 今日、初めてレーサー（陸上競技用車いす）に乗ってワクワクしました。松永さんにとってパラスポーツの魅力を教えてください。

松永 パラスポーツには、福祉の延長というイメージがあるかもしれませんが、純粋にスポーツとして楽しめるものだと思います。私にとっては、自分の人生の一部でもあります。競い合うことの厳しさと同時に、楽しさもあります。私は、とにかくパラが大好きです。

河野 レーサーに乗ると、地面を近く感じる。心地いいですね。

松永 パラスポーツはパラアスリートにとって、自分の可能性を広げるための身体活動の一つでもあります。ハンデがある中で、自分の思っていた「できる範囲を越えていく」ことは素晴らしいことですし、選手が残された機能を最大限に活用して戦う姿は、観る人にとっても文句なしにカッコいいでしょう？

河野 確かに。カッコいいですね。

松永 ドキドキするでしょう？私も、レーサーに乗るたびに心が躍ります。

教育者＝指導者、研究者＝プレーヤーとしての思い

河野 松永さんは監督であり、選手でもありますね。教育者であり、研究者である私たち大学教員にも通じるように思います。私が教育者として注意しているのは、いかに相手の立場に寄り添えるかということです。「今の指導が、その人の未来をどう広げるか」がポイントだと思うのです。

研究者としては、若い人は海外に行ってどんどんチャレンジしてほしいと伝えています。私自身、海外に身を置いた時期があります。尊敬する教授と交流して、世界の最先端との距離の近さを実感しました。

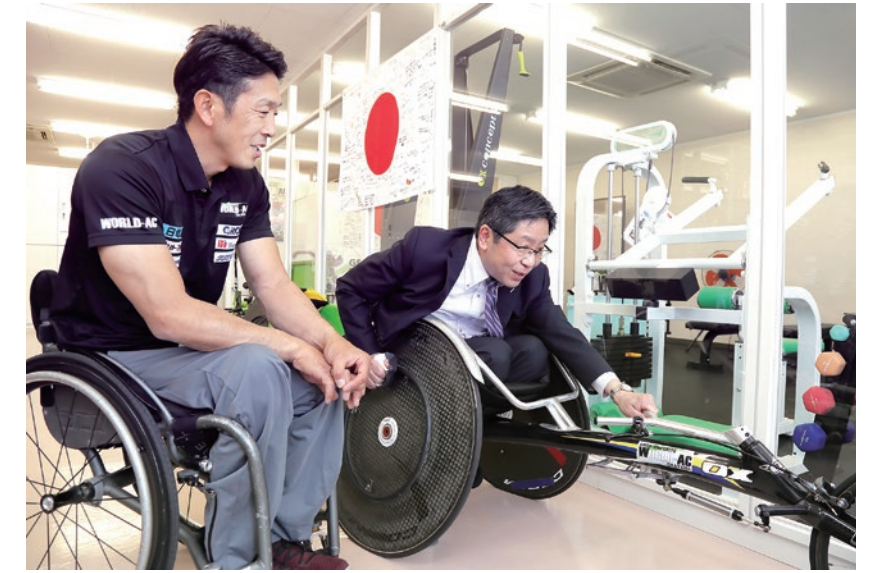
松永 スポーツ界の間も、海外に行くと、世界のトップレベルをとて身近に感じます。「すごい！」と思う気持ちと、「自分たちと大差ない」と思う気持ちを同時に持ちます。私も若い選手には積極的に世界のレースに行かせるようにしています。

スポーツの使命、大学の使命

河野 松永さんは東京パラリンピックで4度目の出場に挑戦されていますが、スポーツへの考え方、見方は変わってきましたか。

松永 2008年北京大会の時は、憧れの舞台に立てた喜びでいっぱいでした。ところがロンドン、リオ大会と経験を重ねるうちに、一つ疑問を持つようになりました。選手村や競技場の近くに貧困地区があることに気づき、「巨費を投じて大きなスポーツ大会をする意義とは何だろうか」と考えるようになりました。そして、私たちアスリートが、世界に与える影響を考えなければいけないと感じています。いまだ私の中で答えが出ているわけではありませんが、結局、我々がスポーツをすることで、みんなが笑顔になり、元気になることが大切なのだと今は思っています。見た人がうれしそうに家路につくような光景が広がるなら、スポーツをする価値があるといえるのでは。そしてオリンピック、パラリンピックも、もっと世界に浸透していくのではないのでしょうか。

河野 そうですね。周囲の人々を元気にする、喜んでいただくことは大切ですね。私も、まず大切にしたいのは、学生たちにどう喜び



を提供できるかという点です。学生の能力や育った環境は人それぞれですが、伸びしろを最大にしてあげるのには大学の役割。「頑張ることによって得られる結果」はひとしおです。本当に頑張ったという過程を一緒に共有することで、真の意味で学生が満足できる大学でありたいと思っています。また、地域の人々には、大学はさまざまな人に学びの場を提供しているということを感じてもらいたい。生涯学習の機会をもっと増やしたいです。地域の方が「再び学ぶ」感動を感じてくれたら、それは学生にも刺激になります。みんなが学ぶこと、そして、大学が「学びの場」を提供することで大学と地域が元気になっていくと思います。

松永 スポーツ選手も、さまざまなアプローチを通じて、何らかの結果を出したら、その時は地域に良い影響を与えられるのではないのでしょうか。私は地域の人たちに応援される実業団でありたいといつも考えています。競技スポーツは結果ありきの世界ですが、結果に向かって突き進む過程もしっかり見てもらいたい。そして町が誇れる、大切な存在になるよう努力していきたいです。

そして、我々自身も地域に愛されるスポーツ選手でありたいと思っています。スポーツは一人ではできません。選手とサポーターが一緒になって、初めてスポーツになります。ですから、試合の結果はできるだけ直接会ってお伝えすることを心がけています。我々の飽くなき勝利への欲求の過程をお伝えすることで、皆さんに元気を与えられるのではないかと考えています。

「学ぶ側がわかる言葉」で語る

河野 兵庫大学は東播磨地域の中で一つしかない大学ですから、地域のためにならないといけません。高齢の方にも、お子さん連れの方にもキャンパスに来ていただいて、地域のみなさんからチャンスとご協力をいただきながら、学生を育てたいと思っています。

松永さんが、普段の練習の中で指導者として気にしていることはどんなことですか。

松永 自分の経験を押し付けけないことです。「私はこうだった。君らもこうだろう」とはいけないということは、肝に命じています。人にはそれぞれ違いがあるから、アドバイスする時は、相手がわかる言

業を探す。噛み砕いて説明したり、手法を変えて伝えたりして、何とかその人の中にストンと落ちる言葉にして説明ができるよう努力しているのです。

河野 かつての大学には一方的な講義が多かったのですが、今の大学は個別対応に努めています。特に本学のような小規模大学では、学生一人ひとりを見てあげられる、つねに目が届く。これはメリットですね。とはいえ学生は人数が多いので、学生間の「化学反応」も大切にしています。何をしているかという、「良い流れを作る人」を探すのです。そういう学生からはエネルギーをもらっていますね。流れを作れる、つまり自分から動く人が周りにいると、そこから気づきを得て、ちょっとしたきっかけで動き出す学生も多いものです。

松永 確かに、雰囲気を作る人を育てることは重要ですね。目的意識をもっているキーマンを育てると、みんながその価値観に引っ張られていく。そんな人が一人いると、みんなのせられるんです。

河野 人を育てる方法は、世界が違ってても根本の部分は同じですね。

松永 自分をつねに若い選手から試されているように感じます。彼らを鍛え育てているつもりで、自分が鍛えられているのです。うちの実業団は日本記録と世界記録保持者がいるので、「優秀なチームを指導されて、順風満帆ですね」と言われますが、なんのなんの。私はいつも彼らが立てる荒波をかぶっていますよ(笑)。

河野 スポーツで頑張っている人は、大学や地域を活性化します。スポーツを見たり体験したりすると、みんながハツラツとする。本学では女子駅伝部が頑張っていますし、併設の附属幼稚園の子どもたちがキャンパス内でサッカーなどしている光景を見ても嬉しくなります。

いつも100%の力を出し切る

河野 パラリンピックを目前に控えてどんなお気持ちですか？



松永 よく「あなたは選手と指導者、何対何の割合で活動していますか？」と聞かれますが、私は「100対100」と答えています。それぞれ100%頑張る。中途半端は嫌です。指導者としては、メダルを取りに行ける選手を育てること、そして次世代のアスリートを育てることが自分の役目だと思っています。

選手としては、2020年は自分にとってのラストチャンス。本当にありがたいご褒美として、自分に許された時間を無駄なく使いたいです。

河野 私も学長として活動するときは、その使命に100%取り組んでいます。今しかないという気持ちです。

最後に、大切にしている言葉を若者に向けてメッセージにして送りたいのですが、よろしいですか？ 私は「Go for it(頑張ろうぜ!)」としたいと思います。

松永 私は「夢は叶える」。夢は待っていても叶わない。自分で叶えるものだからです。

河野 いい言葉ですね。今日は本当に、良いお話をありがとうございました。



●まつなが ひとし 1972年大阪府生まれ。岡山市在住。88年交通事故により両下肢の機能を失う。91年車いす競技生活スタート。04年プロアスリートとしての活動開始。08年北京、12年ロンドンパラリンピック陸上日本代表。14年にグロップサンゼリテ入社。16年3月WORLD-AC発足。16年リオパラリンピック陸上日本代表・主将。17年世界パラ陸上ロンドン大会日本代表・主将。20東京パラリンピック日本代表を目指す。「障害者も健常者も共に走る」をテーマに陸上教室の開催、全国各地での講演会も行う。



●株式会社トップラン
代表取締役社長
トップランテニスカレッジ校長
荒井 貴美人

地域を元気にする テニス指導者輩出が目標！

硬式庭球部(男子)を特別強化指定クラブに認定

●株式会社トップラン
実業団チーム監督
兵庫大学硬式庭球部男子監督
大崎 翔平

地域スポーツ活動の活性化を図りたいとの思いから、本学は若いテニスプレーヤーの育成に携わる「株式会社トップラン」(加古川市)との包括連携協定を締結。また同社の大崎翔平氏を硬式庭球部(男子)監督として招聘することになりました。強化をスタートしたばかりの庭球部の取り組みについて、新監督とトップランの荒井貴美人社長に聞きました。

テニスを通じて人間的成長を

荒井貴美人社長(以下、荒井)：関西の大学には、テニスの指導ができる体育の先生が少ないですね。そのため、実力のある高校生が、地元を離れ関東の強豪大学に進んでしまう。これは残念なことで、地元で体育の先生がもっとテニスの指導をしてくれればと、常々思ってきました。

そんな中で今回、兵庫大学との包括連携協定が実現しました。私は、これがブレイクスルーの機会になればと思っています。というのも幸い、兵庫大学には健康システム学科がありますから、連携を通じてテニスを教えられる体育の先生が増え、子どもたちの間にもっとテニスが広まればと期待しているのです。

大崎翔平監督(以下、大崎)：協定実現の際、「男子硬式庭球部の指導をしてくれないか」とのお誘いを受けました。そこで、トップランの専属コーチである私が、庭球部の監督となることをお引き受けし、全面的に協力することになりました。これまでは高校や女子大学、実業団チームの選手指導にあたってきました。男子大学生に対するのは初めてですが、全力で取り組むつもりです。

荒井：トップランテニスカレッジは今春、全米、全豪オープンで使われているハードコートを完成させました。大学のテニスコートとともに、こちらも兵庫大生に活用してもらおうと考えています。

大崎：硬式庭球部は強化をスタートしたばかり。まずは選手に実力

をしっかりつけてもらい、さまざまな機会を通じて部の認知度を向上したいと考えています。また、勝つことだけを求めるのではなく、大学生の本分である学業を第一に、テニスを通じて人間として成長してほしいと思っています。

荒井：全国からやる気のある高校生をどんどん集め、4年後には一部リーグ昇格をめざします。「テニスの指導者になるなら兵庫大学！」と言われるように、加古川を指導者の聖地にしていきたいですね。

フロンティア精神で未来を築こう

荒井：選手指導にあたっては、常に一人ひとりの良いところをきちんと評価するのが我々の基本方針です。若い人たちには失敗を重ねながらさまざまな事を学んでほしいし、またそんな気持ちで学んでいけば、「社会に出てもうまくいくよ」と言いたいんです。学生さんたちには、フロンティア精神を持ち、ゼロから未来を築いてほしいですね。今後はトップランと兵庫大学を拠点に、テニスプレーヤーや指導者を地域から輩出したいと考えます。

大崎：トップランには、実力ある様々なプレースタイルの人が所属しています。部員がそんな人々と一緒に練習できるのは非常に良いこと。今後は関西学生テニス

トーナメント、秋のリーグ戦や一般の大会にも可能な限り参加していきます。

荒井：テニスを通じて人の縁が増え、地域の活性化につながれば素晴らしい。スポーツは人生を豊かにします。



看護の質のさらなる向上をめざして

大学院 看護学研究科が 来春スタート (設置認可申請中)

●看護学研究科 研究科長(就任予定)
看護学部看護学科 教授
専門:公衆衛生看護学
三徳 和子

地域に根ざした看護の専門家教育の拠点として、2006年に創設された本学の看護学科。来春には、さらに高度な地域医療の実現をめざし、看護学研究科が誕生します。臨床現場における看護師のリーダー、教育者、研究者の養成をめざして、今、開設に向けての取り組みが着実に進んでいます。



科学的視点をもった 看護教育・研究

平成18(2006)年に看護学科の開設以来、人に寄り添う温かな心を持った看護専門職者の育成に取り組んできました。少子・超高齢化社会、長寿社会など、医療・保健・福祉を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。一層多様化、複雑化する人々のニーズに対応できる質の高い教育研究を目指して、2020年4月、看護学研究科(博士課程前・後期課程)を開設します(設置認可申請中)。

看護学科は、大学4年間の中で最大限のスキルを習得できるよう教育を展開していますが、大学院はさらに踏み込んで、分析的、科学的視点をもって「医療を軸に社会を変える」力を養う場と位置付けられます。

研究科がイメージしている人物像には3方向あります。まず、地域や医療現場においてリーダーとなる人材。次いで、大学などの教育機関における教育者。さらに、看護を科学の視点から探求する研究者です。

大学院では3タイプの人材育成を通じて、「人々の幸福度を向上させながら看護師自身の満足度も高める」という難題にじっくりと取り組もうと考えています。学生個々の研究テーマに合わせてしっかりと研究指導を行い、丁寧に人材を育てていく計画です。また、国際的視野をもって看護を変革していく人材となるべく、国際感覚の醸成にも力を入れていきます。

“生き切る”を支える

看護学研究科の基盤となる考え方について、研究科長に就任予定の三徳和子教授は次のように語っています。

「私たちが重視しているのは、命を満足して終える、すなわち“生き切る”ことを支えられる看護の実践です。そのためには、病気や怪我の回復に取り組む“戦う看護”の視点はもちろん、命に最後まで寄り添う“守る看護”を進めていかねばなりません。諸外国に比べて超高齢化が著しい我が国こそ、長寿社会にお

ける看護の最先端モデルを示せるのではないかと考えます。

博士前期課程ではリーダー、教育者としての視点を、博士後期課程ではグローバルな視点から、自立して研究を進めていける研究者を養成します。前期、後期の両課程が同時にスタートし、5年間の一貫教育を行います。学生にとっては、前期課程のスタートから5年間の研究計画を立てられるので、学びやすい教育環境が実現します。

「いずれの課程でも生活の質(QOL: Quality of Life)を高め、最期までその人らしく生き切ることを支援できる看護の拡充に向け、エンドオブライフケア看護学や広域看護学の領域を設置します。また、健康寿命の延伸を研究する長寿科学看護学などの特徴ある領域を計画しています。」(三徳教授)。

カリキュラムの特徴

具体的には、End of Life Care(終末期看護)を心身両面から考えるために臨床死生学、

社会福祉学などの科目を展開し、人という対象を多角的に捉え支援する力や、社会を変革する力を養います。同時に体験、実験を重視し、学外における実践活動の機会を多く設定します。

さらに、社会人入学枠を設置して平日の夕方から土曜日を使った授業を展開し、働きながらも学べるよう配慮します。

「現代社会において家族の介護力の向上、さらには、社会の共助の力の向上が、今後ますます求められます。対象者としての「個」だけではなく、地域の特性を踏まえた「集団」へも目を向けることが重要です。学生には、地域に即した生き方や助け合い方を考え、社会の中のシステムを変えていく力を身につけてほしいと期待しています。そのために地域に出て、現場の人々と一緒に課題を解決するフィールドワークにどんどん挑戦してほしいと思います」と三徳教授。

教育内容に質の高さとともに社会性をもた

せたいという大学院教育の方針は、「看護師が他職種と支え合って働く力を養う」という本学看護学科の教育方針と同一線上にあり、本学の「和」の精神ともつながるものです。

大学の知を地域、社会に還元

本学は2018年3月、大学院設立にあたっての懇談会を地域の有識者を招いて開催しました。その際、医療関係者の方々から「一緒にフィールドワークや研究がしたい」「高度な医療に対応する教育を進めてください」と非常に好意的な声寄せられました。三徳教授も「私たちも、地域の病院などとの交流が活発化することは大歓迎です。研究成果は惜しみなく地域に提供していこうと考えています」と語ります。また研究科の開設により、地域の皆様に大学の知を還元する場としての「エクステンション・カレッジ」もさらに活性化し、地域との絆が強くなると期待されます。想定している大学院生像は、大学を卒業し、

数年の看護経験を積んだ方です。医療機関の看護領域で活躍している管理職、リーダーの方々、および看護に問題意識をもつ方に広く門戸を開きます。本学の看護学科卒業生にもぜひ門を叩いてほしいと考えています。

看護学は実践の学問であり、エビデンスに基づく科学的な学問であり、そして「人々を幸せにする学問」でもあります。

すでに看護師として活躍中の人、これからの新たな課題である終末期のケアを深め、最新の学びに取り組み、パワーアップして現場に戻れば、看護師として大きく成長することができるでしょう。

「入学を希望する学生には『看護は一生勉強するもの』という意識をもってほしいと思います。特に本学卒業生には、これからも長く大学と職場を行き来しながら、社会人として、またプロとしての自覚を高めてほしいと期待しています」(三徳教授)。

TOPIC 地域経済の発展に向けて

2020年4月 現代ビジネス研究科誕生 (設置届出中)

兵庫大学大学院現代ビジネス研究科では、「経済」を通じた学修から、産業振興や地域振興の事業構想力と高度な実践力を身につけ、地域創生のリーダーとして、地域経済の発展に寄与できる高度な専門職業人を養成します。

教育研究方針

教育研究上の目的

- ▶ 地域経済に関する高度な理論と応用
- ▶ 情報技術やビジネス手法を活用した課題解決のための創造的思考法
- ▶ 地域社会やグローバル社会で実践的に課題解決

特別研究(修士論文)

カリキュラム体系

演習科目
リーダーシップ養成、PBL、長期インターンシップ等の実践的手法と創造的思考法の演習(地域創生演習)

地域ビジネス系科目
地域ビジネスをグローバルに展開する理論と手法を学ぶ

公共政策系科目
社会的仕組みを実現する理論と手法を学ぶ

現代ビジネス基盤科目
ビジネス基盤 IT基盤

養成する人材像

- 地域の産業振興や地域資源の事業化ができる人材
- 地域ビジネスをグローバルに展開できる人材
- 情報技術を活用しビジネスの手法で地域の課題を解決できる人材

教育方法

- 社会人の学びやすい形態での授業開講
- 複数教員による特別研究指導

活躍の場

- 行政職
- 商工会議所・商工会
- 金融機関(地域創生)
- 起業家、社会起業家 等

地域創生

夢と希望、輝きと活気
生活の豊かさと安定

看護学研究科

前期課程入学

共通科目

専門科目

基盤看護学
●看護教育管理学
●長寿科学看護

エンドオブライフケア看護学
●エンドオブライフケア看護学

生涯発達看護学
●成人・老年看護学
●母性・小児看護学

広域看護学
●精神看護学
●在宅看護学
●地域看護学

特別研究

後期課程入学

共通科目

専門科目

エンドオブライフケア看護学
●エンドオブライフケア看護学

生涯発達看護学
●生涯発達看護学

広域看護学
●在宅看護学
●地域看護学

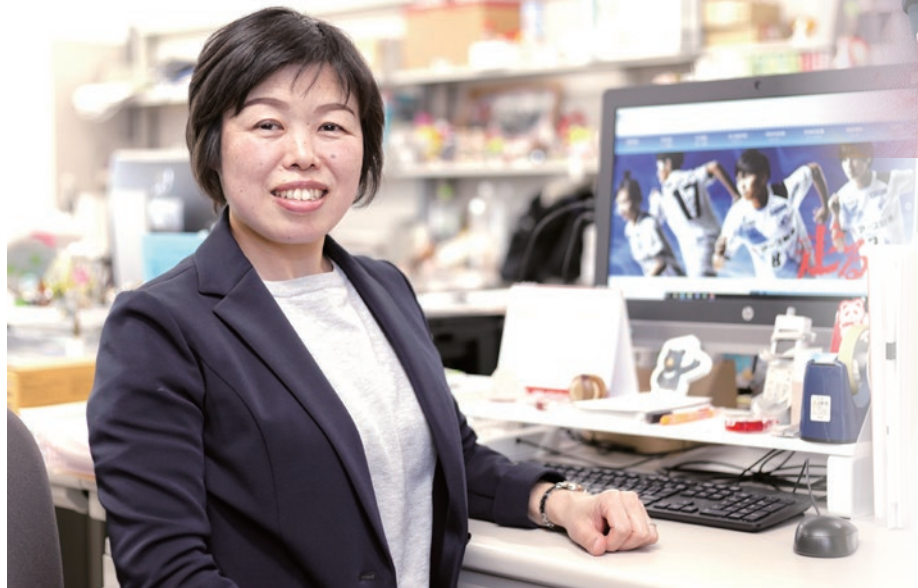
特別研究

概要

- 名称: 看護学研究科看護学専攻 博士前期課程(2年課程) 博士後期課程(3年課程)
- 開設時期: 令和2年4月
- 入学定員: 博士前期課程 6人 博士後期課程 4人
- 学位: 博士前期課程 修士(看護学) 博士後期課程 博士(看護学)

なでしこリーグ選手たちを食と栄養面からサポート

女性アスリートの競技力向上と健康を支えたい



選手の筋肉量、体脂肪量など体組成を測定。個別相談にも乗る

●健康科学部栄養マネジメント学科 助手
専門：栄養教育
平郡 玲子
【研究テーマ】スポーツ栄養／食育など

2017年から、本学の連携協定先であるASハリマアルビオン(日本女子サッカーリーグ2部所属)の選手たちの栄養指導にあたって平郡玲子助手(栄養マネジメント学科)。管理栄養士、公認スポーツ栄養士でもある平郡助手が、サポート内容や研究へのフィードバックについて語ります。

—どんなサポートを行なっているのですか？

17年度には一部の選手だけを対象にしていた体調管理サポートを、18年度からはチーム全員に行うようになりました。今のところ、栄養マネジメント学科の教員3名が月に一度練習場に足を運び、面談を実施しています。内容はトレーニングに合わせた食事、栄養についての情報提供など。また選手の骨量や筋肉量、貧血かどうかなど、体の状態についての測定を実施し、個別の質問にも答えています。日常の食事については、こちらから質問することもあります。そこで得た結果をまとめ、今後のサポートのためにデータとして活用しています。

選手へのアンケートからは「食生活は大切だと分かっているけど、昼間フルタイムで働き、夕方から練習、土日は試合というなかで、つい食事への注意がおろそかになってしまう」という実情が伝わってきます。今年から、チームが練習後の夕食を提供するようになりましたが、サポートの重要性は変わらないと思います。

—選手から求められるのは、どんなことですか？

選手の皆さんからは「簡単に作れる料理レシピが知りたい」「栄養管理、健康維持についての知識が欲しい」など本来の栄養に関する要望だけでなく、「気軽に相談できる人がいると、自分だけで悩まないですむ」という切実な声も聞いています。またチーム運営部からも「体調管理のホットラインになって」と頼まれています。

面談時に心がけているのは、体調管理の負担感を感じさせないよう、楽しく情報を伝えること。「アドバイスを活用すれば効果が出て、自分のしたいことが続けられる」とプラスに受け取って、自分の中の変化を感じてほしいですね。

—毎年の栄養サポートに、テーマがあるそうですね。

1年目は「食事と体調の関係を知ろう」、2年目は「持久力アップ、疲労感軽減をめざそう」というテーマでした。3年目となる今年は「暑い夏を元気に乗り切ろう」というテーマで、暑さ対策に重点を置いて取り組みます。

—蓄積したデータをどう生かしますか？

社会人アスリートの体の変化を継続的に調査している結果を生かし、栄養学の研究を深めていきたいです。また、学外での発表を通じて栄養サポート結果を広く知ってもらい、他のスポーツ選手のサポートにつなげていきたいと思っています。本学科のスポーツ・食育コースでは女子駅伝部の体調管理をサポートしているので、そのプラスにもなると期待しています。



選手たちに毎月配布する手作り冊子。健康、食生活の話題が満載



運動指導、評価法などに関する数多くの著作

組織レベルでの健康増進に挑む

運動法、評価法、人材育成の開発

●健康科学部 学部長
健康科学部健康システム学科 教授
専門：健康科学、運動処方
朽木 勤

【研究テーマ】
生活習慣病やメンタルヘルスに対する運動処方と運動習慣化／
企業生産性を高め健康経営に有効な運動プログラム開発

企業や地域社会、教育機関などさまざまな組織、グループについて、組織運営の視点から健康を考え、成果の出せる運動法を追求する朽木勤教授(健康システム学科)。組織の中での健康づくりを推進するリーダーの育成にも力を注いでいます。

—「健康経営」の視点を重視しているとお聞きしましたが、その意味は？

企業はこれまで従業員の健康増進に取り組んできましたが、あまり成果が出ていません。その理由は、健康は個人の問題だと考えられてきたからです。しかし、病気や休職は本人にとっただけでなく、企業にとっても損失。健康上の問題を抱え、実力を存分に発揮できない人がいるのはもったいないことです。

企業にとって従業員の健康への配慮はコストではなく、視点を換え、健康づくりは企業価値を高めるための投資と考えていこうというのが、健康経営の考え方です。

—企業以外の組織にもあてはまりそうですね。

健康経営の視点を自治体や地域社会にも導入し、組織に利益をもたらす健康づくりのリーダーを育成するべきだと考えています。一方、大学での学生の健康増進にも取り組んでいます。生活習慣がよい学生は元気で、健康になります。すると成績も上がり、満足いく就職活動も可能となる。健康であることが将来につながると思います。

教員、職員も健康増進を推進し、「大学の健康経営」を科学的に進めていきたいと考え、エビデンスの蓄積を学生とともに進めています。本学科の学生には学校や運動施設だけでなく、一般企業や地域社会でも健康づくりの大きな力になってほしいと思います。

—おもな研究内容を教えてください。

これまでに一般の方々の運動処方やトレーニング効果を評価する方法の開発、人間ドック受診者の運動療法の開発を行ってきました。現在は新しい計測機器や統計手法を導入し、運動とメンタルヘルスや生産性との関係に踏み込んだ研究を進めています。

—研究者として大切にしている思いは？

データ、エビデンスを積み重ねるのは重要なことですが、その一方で個体差をしっかりと見つめることも、大切にしたいと思っています。一人ひとりの健康は、その人の暮らしや歴史に関わるものだから、データを平均値だけから考えないように気をつけています。

—研究成果から、本誌「和(なごみ)」読者へのアドバイスがあればお願いします。

最近、社会人の皆さんに強調しているのは「座りすぎはいけない」ということです。運動など健康にプラスなことを行なっていても、座りすぎなどマイナスなことを長時間していると、プラス効果が打ち消されてしまうという研究もあるので、気をつけてください。

—今後の取り組みは？

今年度からエクステンション・カレッジで企業実践講座がスタートする予定です。地域の経営者に呼びかけ、健康経営の考え方の普及啓発に力を注いでいきます。また学内では、学生の運動不足の実態や4年間の健康状態や体力の変化を調査するとともに、健康維持向上のためのプログラム開発を進めていきたいと考えています。

日々の運動・身体活動の大切さを本学の内外に広め、地域全体を健康にする仕組み、しかけを考えていくことによって、兵庫大学が地域の健康づくりの中核を担えるといいなと考えています。

からだの動きと心の動きの つながりを見つめたい

身体表現を見る手の心はどう受け止めるか
心理生理学的手法でアプローチ

●短期大学部保育科 講師
専門：身体表現
永井 夕起子

【研究テーマ】
上肢表現の印象について／保育者養成校における身体表現指導など



保育内容表現の授業風景



自らスポーツやダンスを経験しながら、身体をキーワードに生理心理学の研究を進めている永井夕起子講師(保育科)。研究内容の幼児保育への応用に積極的に取り組んでいます。

—身体についての研究を始めたきっかけは？

私は小学校から高校までバレーボールに打ち込み、いわゆる強豪校で活躍していました。いつしか体に対する違和感、つまり自分の身体が「スポーツのための体」になっているのでは、という感覚を抱くようになり、勝利にこだわらない身体活動への関心が高まっていきました。

幼少期の頃大好きだったダンスを大学で再開し、「体と感情が一致して、自分が自分でいられる喜び」を実感。さらに表現的な身体活動を通じた心理療法であるダンス・ムーブメントセラピーと出会って、心と身体表現への興味が深まり、大学院で本格的に研究を始めました。

—現在の研究内容をご紹介ください。

研究テーマをわかりやすく言うと「ヒトの動きを見た時の心の動き」です。「どう動くなら共感できるか」という点に興味があり、ダンスのセラピーやワークショップに参加して専門家と交流しながら、ヒトの動きが見る者に与える影響を、生理心理学的手法で研究しています。

—どのような研究方法を用いるのですか？

例えば、さまざまな動きを見ている時の脳波を測定して、観察者の注意が向く動きとは何かを探求しています。両手を肩幅より大きく広げた時と、肩幅くらいの時、どちらに人は関心をもつかなどを調べていきます。今後は、動きに対する印象の評価についても研究したいと考えています。

—保育科の教員として、身体表現と教育への思いを。

教育現場ではどうしても「人に見せるための表現」になってしまいがちのようです。確かに「がんばって踊った、表現した」時の達成感というものはありますが、達成することより、子どもがイメージしたこと、感じたことを動きに表現できることの方が大切だと思っています。当然一人ひとり異なるものが現れるので、それを受け入れる教育者の存在は非常に大事です。「からだの動きと心が一致している感覚」が土台となって、一人ひとりの個性が育つてくる。知識や教養のタネを蒔く前に、こういう土台を養う必要があります。

—学生は身体表現についての授業をどう感じているようですか？

例えば子どもは人に触れる時、どこを、どの程度の力で触ったらいいかなど、遊びを通じて学んでいきます。しかし学生同士の触れ合い遊びの時には「触れられるのはこわい」という感想が出てくることがあります。本来、大学生であれば、相手との関係性を考慮して触れる部分や力加減を調整することが身につけているものです。しかし、運動などで得られる身体を介したコミュニケーション経験が不足しているせいか、触れたり触られたり、力をやりとりすることが苦手になっているのかなと思うことがあります。

—今後、進めていきたいことは？

歌う、踊る、絵を描くなど、保育の現場でのさまざまな表現を融合して活動できるような保育の方法を、他分野の専門家との共同で考えていけたらと思っています。活動中に子どもはどう感じるか、完成したらどう感じるかなどをていねいに見つめ、身体活動と心の充実感が一致するような保育の形を作りたいです。

本学を卒業し、加古川市内の幼稚園に勤務する森田あかりさん。元気な園児たちに囲まれ、充実した毎日を送っています。子どもと接する時、気をつけているのは「待つこと」。先生が子どもを引っ張っていくのではなく、「子どもが自分で考え、気づくのを待つ」大切さをつねに感じるそうです。

「できた!」を共有するよろこび

卒業して幼稚園教諭に合格したばかりの頃は、実感が湧かず「本当に先生になるのかな」というのが正直な気持ちだったという森田さん。しかし、毎日子どもたちに接して成長を見守り続けるうちに、次第に自覚が生まれ、「子どもの将来を見据え、じっくり付き合っていくなくてはいけない」と考えるようになりました。

「遊びの中で好きなのは、登り棒や平均台など全身を動かすもの。みんな、できるようになった喜びを精一杯表してくれるからです。子どもと感情を共有できた時は本当に嬉しいです。また、粘土や色紙を使って自由に創作する時間には多くの発見があり、一人ひとりの個性に気づくこともできます」。

懇談会などの席では、保護者のみなさんの相談に積極的に乗るように心がけています。「例えば『うちの子だけ、ひらがなを覚えるのが遅いのでは』など多様な不安、悩みを伺います。お話を聞いてさし上げて、かるた取りなど、お家でも気軽に楽しく仮名が練習できる方法をアドバイスすることもあります」。

さまざまな地方出身の友人たちとの大学生活

森田さんは鳥取県の出身。入学と同時に寮生活が始まり、ほどなく西日本の各地から集まった人たちと仲間になりました。「寮には掃除当番や門限などの決まりがあり、自由なことばかりではありませんでしたが、みんなに囲



子どもの成長を見守り続ける 頼れる先生でありたい



森田 あかりさん

生涯福祉学部子ども福祉学科を2016年3月に卒業後、加古川市立両荘幼稚園に勤務。初年度は年少組(4歳児クラス)を、2年目は持ち上がりで年長組(5歳児クラス)の担任を務める。3年目となる今年度は再び、年長組を担当する。

まれての生活なので、寂しさと不安を感じなくて済みました」と振り返ります。

印象に残っているのは「模擬保育」の授業。子どもに扮した友人たちの前で先生役に取り組む経験が、教諭になった後に生きてきたといえます。「演技後の話し合いを通じ、自分の特徴や課題を客観的に知ることができました。回を重ねるにつれ、見られることから来る緊張にも少しずつ慣れ、教室全体に目が届くようになりました」と話します。また、「大学附属幼稚園の活動を普段から見学させてもらったことも、とても勉強になりました」。

今改めて大学での学びに感謝

指導教員からは、「子どもは遊びで学ぶもの。たくさん遊ばせることが大切」と繰り返しアドバイスされました。「当時は実感もなかったのですが、今はその通りだと思います」。遊びに一生懸命取り組むなかで、多くのことを学び、習得していく子どもの姿に充実を感じています。

また、就職活動の際には「筆記試験と実技試験の両面から熱心にサポートしてもらいました。特に実技のピアノと創作ダンスではお世

話になりました。教わった弾き語りのテクニックなどは、今でもとても役に立っています」。

子どもと保護者に信頼される存在でありたい

幼稚園ではどんな先生ですかと何うと、「『優しいけど、怒る』先生だと子どもたちに思われているようです」という答え。また、喧嘩したら、本人同士でしっかり話し合いをさせるのも森田流です。「着任当初はあまり怒らなかったのですが、『大切なことは、ビシッとやらないといけない』『きちんと理解できたら、子どもの心が離れていくことはない』と先輩にアドバイスされて、意識が変わりました」。

「これからも、怒ったらこわい先生でいたい」という森田さん。最後に「子どもに信頼される先生、また保護者の皆さんが子どもを安心して預けられる先生」でありたいと、熱意を語ってくれました。

学生による
認知症カフェ/PBL

和(なごみ)カフェは、社会福祉学科と看護学科の学生が、認知症の方々のサポート、予防を目的にキャンパス内外において運営する手作りのカフェ。地域の高齢者が気軽に集まれる場所を作ろうという意欲的な取り組みが評価され、活動グループは2018年度に学内で開催された「PBL(問題解決型学習)グランプリ」にてグランプリを受賞しました。

高齢者、認知症に関わる方の 交流の場をキャンパスに！



コーヒーとおしゃべりで和んでほしい

和(なごみ)カフェ運営に参加するグループの所属メンバーは、学科・学年を越えた10数名。その一人である社会福祉学科の長田知花さんに、活動内容を聞きました。「和カフェは、地域の認知症患者



お菓子とコーヒーで和みのひと時

さんやご家族、認知症に関心のある人々などに来ていただき、コーヒーを飲み、お菓子を食べながら、ゆっくりお話しする場です。カフェは学内だけでなく、時には学外でも開催されます。「昨夏は、豪雨により甚大な被害を受けた岡山県真備町で、災害ボランティアに参加しながら開催しました。

学内では17号館の107教室を会場として、昼過ぎから夕方までカフェをオープン。コーヒーを振る舞い、地域の人々と話をします。「学内では認知症予防を目的としていますが、特に来る方を選ばない取り組みです。健康システム学科の先生、学生さんにも協力いただいて、認知症予防体操なども紹介しています。

話題は主に地域のことで、「お住いの場所に関する話題や普段の生活などについて伺います。岡山県真備町では、災害の状況や現在の暮らしの話を聞きました。知らなかった地域のことが分かった、視野が広がります。

まずはコーヒーの話題から

コーヒーは生豆から焙煎し、お菓子も用意します。「生豆からの焙煎なので時間がかかりますが、

時間をゆっくり使い、いい匂いに包まれていると、雰囲気や和み、楽しくなってきます。

カフェに来られる方は高齢者が中心。「一人で来られる方もいるし、友人と一緒に来る方もおられます。みなさん、質問には快く答えてくださいます。話す時に気をつけていることは、人の心にずけずけと踏み込んでいかないこと。「こちらからは、まずコーヒー豆の煎り方、ひき方などの話をします。その後、地域の話に広がっていくことが多い。高齢の方と話すとか古川の町や大学周辺の昔の様子なども聞け、自分も話題が豊富になるのがうれしいです。

もっと地域とつながりを

長田さんにとって「看護学科の学生や地域の人と情報交換できる」ことも魅力。「福祉と医療分野との連携について具体的に学べているなど実感しています。コーヒーの焙煎も上手くなりました。すべてが社会に出た時に役だつと思います。将来は人、地域と関われる仕事がしたいと考えています。

これからの課題は「今は2、3ヶ月に一度なので、開催回数を増やしたい。また最近参加した新1年生からも、『学内で常設にできないか』『子ども食堂ができないか』などの提案が出ています。なかなか実現は難しいが、取り組めることからやってみよう。4年生になっても、時間が許す限り参加したいと力強く語りました。



健康システム学科の教員、学生が認知症予防体操を指導



ジェスチャーも交えてとにかく言葉を伝えることに必死になっていました。

笹平 言葉だけでなく、体も使ったコミュニケーションはいい経験になったことでしょう。要は通じるかどうか。間違いを恐れず、言いたいことを言うのが大切です。

本郷 また、ホストファミリーのご夫妻やお子さんたちが、毎日「今日はどんなことがあったの」「日本のことを教えて」と話し相手になってくれました。日本での食事前に手を合わせる習慣など、文化・習慣の違いをめぐって話し合いました。

笹平 ホストファミリーは異文化に興味のある人が多いので、ホームステイは日本の文化を再発見する機会にもなりますね。

●語学力はアップしましたか？

本郷 最初は話しかけられても、イエスとノーしか言えませんでした。耳が英語に慣れてくると聞き取りの能力が上がり、最後には自分がどうしたいかを伝えるようになりました。

前田 身体全体を使って思いをはっきり伝える米国人の様子を目の当たりにして、ぜひ見習おうと決めました。学生寮では日本語が通じる人に頼ってしまったこともありましたが、授業では頑張って、日常生活に役立つ英語を一生懸命勉強しました。おかげで英語力は伸びました。

笹平 短期留学を通じ、2人とも英語らしさが身につく、間の取り方もナチュラルになりましたね。語学以外にもさまざまなことが体験できたようで、積極性が上がったように感じます。英語に自信がつくと、日本語のコミュニケーション力も向上しますよ。

多彩な実地体験から生まれる コミュニケーションへの 自信、意欲

グローバル 現代ビジネス学科米国短期留学プログラム

卒業までに海外留学が必修となっている現代ビジネス学科グローバルビジネス専攻。昨年8月半ばから9月上旬までの約4週間、アメリカ・カリフォルニア州立大学ペーカースフィールド校での短期留学に学生5名(女子3名、男子2名)が参加しました。学生たちはキャンパス内での英語学習の他に、学外散策や農園・工場見学など多彩なプログラムでアメリカ文化をダイレクトに体験しました。

●留学先にカリフォルニアを選んだ理由は？

本郷 ハワイかカリフォルニアかで悩みましたが、「ハワイは日本の人が多いよ」と聞いていたので、せっかく海外留学するなら英語漬けになりたいと思い、決めました。

笹平 ペーカースフィールド校は中規模校で、日本人があまり留学していない大学。日本語から離れて生活できる点が大きな特色ですね。

前田 笹平先生から「留学前に英語をよく勉強しておく、現地での経験が深まりますよ」と言われていたので、映画などで英語にできるだけ触れました。先生のオール・イングリッシュの授業も意識して勉強しました。

●現地でどんな人と英語で話しましたか？

前田 留学生や大学の先生だけでなく、街中で、たとえばショップの店員さんなどとも話しました。

笹平 留学の狙いとしては、授業を受けるだけでなく、ローカルな生活を体験することで、生活の中で使う英語をどんどん吸収してほしいということがあります。

本郷 アーモンドの農園や加工工場を見学した時など、地元の方々と話げできました。授業も教科書も全て英語で大変でしたが、

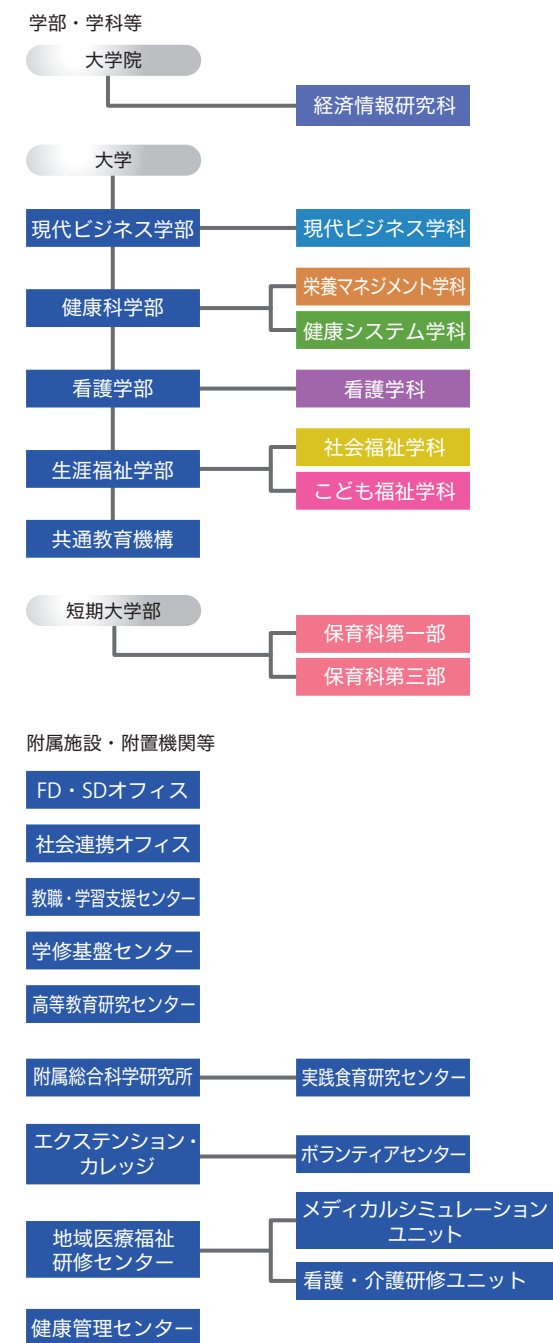


- 現代ビジネス学部現代ビジネス学科 教授 専門：言語学 笹平 康弘
- 現代ビジネス学部現代ビジネス学科4年生 本郷 亜咲(大阪府立池田北高等学校出身)
- 現代ビジネス学部現代ビジネス学科3年生 前田 泰一(兵庫県立高砂南高等学校出身)

●兵庫大学 兵庫大学短期大学部

| | | |
|---------|--|--|
| 設置者 | 学校法人 陸学園 | 建学の精神  聖徳太子の御徳を慕い、その十七条憲法に示された「和」を根本の精神として仰ぎ、仏教主義に基づく情操教育を行い、有為の人材を養成します。 ※本学は浄土真宗本願寺派(西本願寺)の宗門関係学校です。 |
| 設置年 | 兵庫大学 1995(平成7)年 兵庫大学短期大学部 1955(昭和30)年 | |
| 理事長 | 渡邊 東 | |
| 学長 | 河野 真 | |
| 校地・校舎面積 | (校地面積)93,279㎡ (校舎面積) 31,059㎡ | |
| 蔵書数 | 143,830冊 | |

●兵庫大学・兵庫大学短期大学部教育研究組織



※経済情報学部経済情報学科及び健康科学部看護学科を除く。

●取得可能な資格 ★は国家試験受験資格 ☆は受験資格

| | | |
|-------|------------|--|
| 大学院 | 経済情報研究科 | ●高等学校教諭専修免許状「情報」 (高等学校教諭一種免許状「情報」の取得が必要) |
| 大学 | 現代ビジネス学科 | ●高等学校教諭一種免許状「公民」・「商業」 ●上級秘書士・上級秘書士「国際秘書」 ●上級ビジネス実務士・上級ビジネス実務士「国際ビジネス」 ●上級情報処理士 |
| | 栄養マネジメント学科 | ●管理栄養士★ ●栄養士免許 ●栄養教諭一種免許状 ●食品衛生管理者 ●食品衛生監視員 ●フードスペシャリスト☆ |
| | 健康システム学科 | ●養護教諭一種免許状 ●中学校・高等学校教諭一種免許状「保健体育」・「保健」 ●健康運動指導士☆ ●健康運動実践指導者☆ ●初級障がい者スポーツ指導員 ●ジュニアスポーツ指導員☆ ●社会福祉主事任用資格 ●第一種衛生管理者 |
| | 看護学科 | ●看護師★ ●保健師★ ●養護教諭一種免許状 ※保健師課程は選択制です。 |
| | 社会福祉学科 | ●社会福祉士★ ●精神保健福祉士★ ●高等学校教諭一種免許状「福祉」 ●社会福祉主事任用資格 ●児童指導員任用資格 ●福祉レクリエーション・ワーカー |
| 短期大学部 | こども福祉学科 | ●幼稚園教諭一種免許状 ●保育士資格 ●こども音楽療育士 ●児童厚生一級指導員 ●社会福祉主事任用資格 |
| | 保育科 | ●保育士資格 ●幼稚園教諭二種免許状 ●社会福祉主事任用資格 |

データで見る

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

●学生数 (単位：人)

| 大学 | | 男 | 女 | 計 |
|------------|------------|-----|-------|-------|
| 大学院 | 経済情報研究科 | 1 | 2 | 3 |
| 現代ビジネス学部 | 現代ビジネス学科 | 155 | 67 | 222 |
| 健康科学部 | 看護学科 | 11 | 83 | 94 |
| | 栄養マネジメント学科 | 49 | 153 | 202 |
| 看護学部 | 看護学科 | 81 | 65 | 146 |
| 生涯福祉学部 | 社会福祉学科 | 48 | 258 | 306 |
| | こども福祉学科 | 49 | 64 | 113 |
| 大学計 | | 37 | 140 | 177 |
| | | 431 | 832 | 1,263 |
| 短期大学部 | | 男 | 女 | 計 |
| 保育科 | 第一部 | 3 | 175 | 178 |
| | 第三部 | 8 | 240 | 248 |
| 短期大学部計 | | 11 | 415 | 426 |
| 大学・短期大学部合計 | | 442 | 1,247 | 1,689 |

※経済情報学部経済情報学科を除く。

●卒業生数 (単位：人)

| | 合計 |
|-------------|--------|
| 大学(大学院含) | 5,085 |
| 短期大学部(専攻科含) | 30,730 |
| 大学・短期大学部合計 | 35,815 |

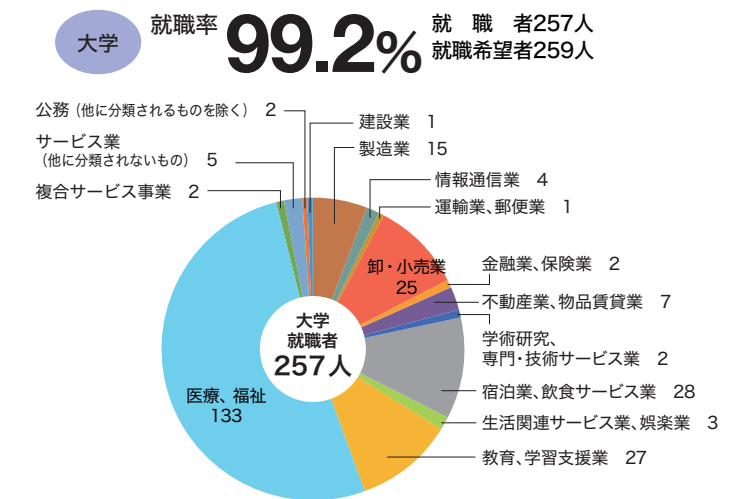
●専任教員数 (単位：人)

| 大学 | | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 計 |
|-----------------|------------|-----|-----|----|----|----|-----|
| 現代ビジネス学部 | 現代ビジネス学科 | 9 | 6 | 1 | 0 | 0 | 16 |
| 健康科学部 | 栄養マネジメント学科 | 5 | 5 | 3 | 1 | 4 | 18 |
| | 健康システム学科 | 6 | 4 | 1 | 0 | 0 | 11 |
| 看護学部 | 看護学科 | 10 | 5 | 10 | 1 | 6 | 32 |
| 生涯福祉学部 | 社会福祉学科 | 4 | 3 | 1 | 0 | 0 | 8 |
| | こども福祉学科 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| 共通教育機構 | | 4 | 5 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 高等教育研究センター | | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 大学計 | | 45 | 33 | 16 | 2 | 10 | 106 |
| 短期大学部 | | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 計 |
| 保育科第一部・第三部 | | 6 | 5 | 5 | 0 | 0 | 16 |
| 短期大学部計 | | 6 | 5 | 5 | 0 | 0 | 16 |
| 大学・短期大学部合計(職位別) | | 51 | 38 | 21 | 2 | 10 | |
| 大学・短期大学部合計(総数) | | 122 | | | | | |

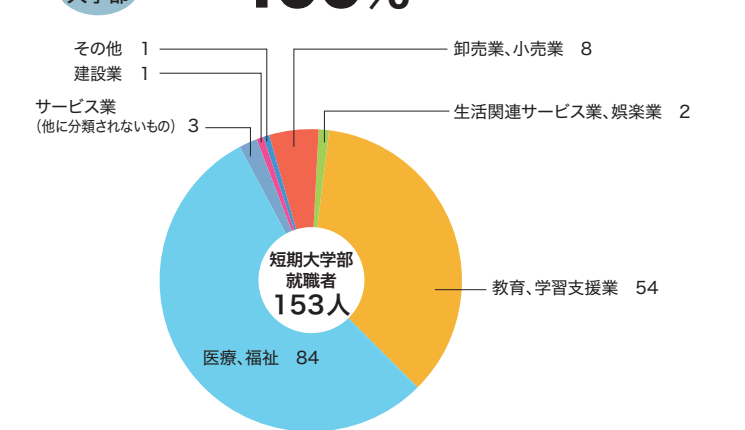
●専任事務職員数 (単位：人)

| | |
|---------|----|
| 大学・短大共通 | 58 |
|---------|----|

●平成30年度卒業生 就職状況 (単位：人)



●短期大学部 就職率 **100%** 就職者153人 就職希望者153人



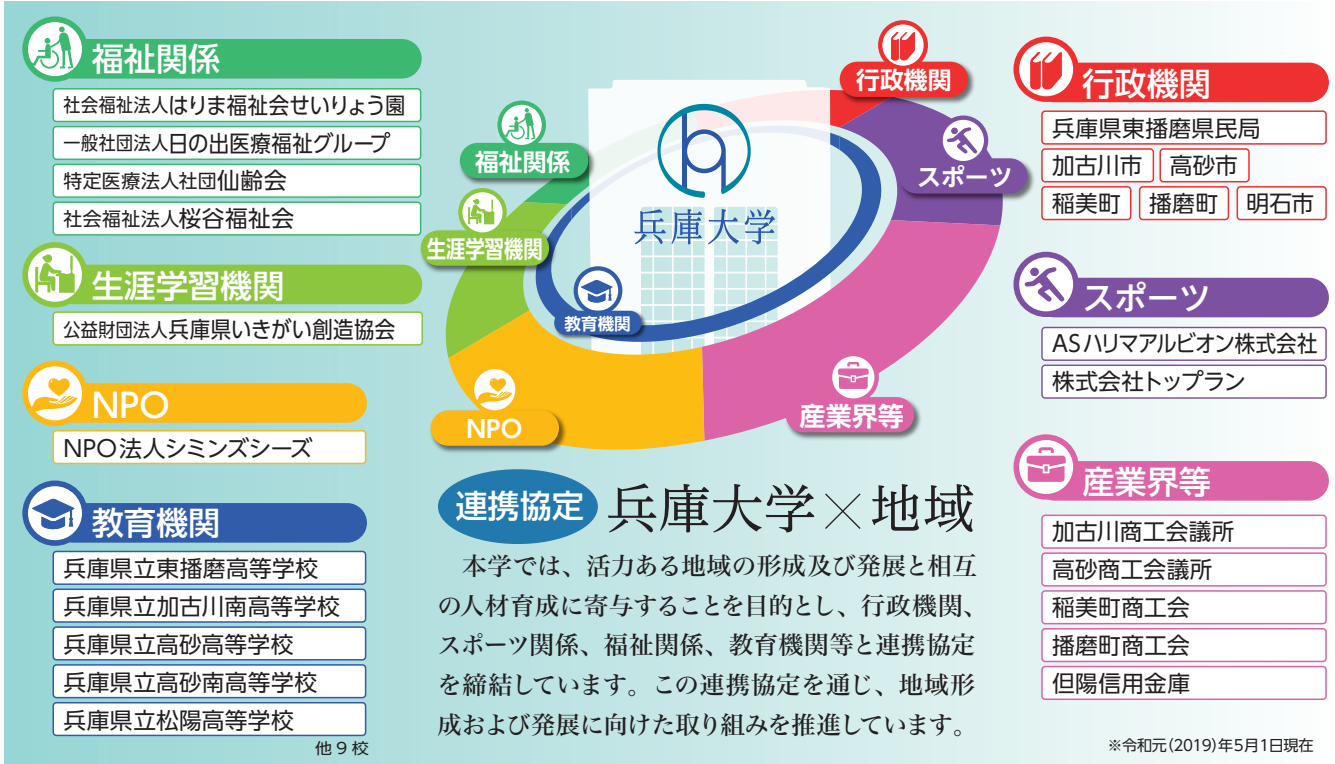
●地域別就職状況 (単位：人)

| 地域 | 人数 | 地域 | 人数 | 地域 | 人数 |
|------|-----|------|-----|-----|----|
| 関東 | 2 | 関西 | 1 | 中国 | 5 |
| 千葉県 | 1 | 滋賀県 | 6 | 岡山県 | 1 |
| 栃木県 | 38 | 京都府 | 33 | 広島県 | 1 |
| 東京都 | 1 | 大阪府 | 304 | 島根県 | 1 |
| 神奈川県 | 1 | 兵庫県 | 1 | 愛媛県 | 2 |
| 中部 | 3 | 奈良県 | 2 | 高知県 | 3 |
| 静岡県 | 1 | 和歌山県 | 2 | 香川県 | 2 |
| 愛知県 | 1 | | | 福岡県 | 2 |
| 三重県 | 1 | | | | |
| 合計 | 410 | | | | |

●兵庫県内内訳 (単位：人)

| 市町村 | 人数 | 市町村 | 人数 | 市町村 | 人数 |
|------|-----|--------|----|------|----|
| 神戸市 | 67 | 小野市 | 12 | たつの市 | 7 |
| 姫路市 | 57 | 西宮市 | 10 | 赤穂市 | 6 |
| 加古川市 | 42 | 尼崎市 | 9 | 高砂市 | 6 |
| 明石市 | 34 | 加古郡稲美町 | 7 | 三木市 | 6 |
| 合計 | 304 | | | その他 | 33 |

※14・15ページ掲載データは全て令和元(2019)年5月1日現在のものです。



連携協定 兵庫大学×地域

本学では、活力ある地域の形成及び発展と相互の人材育成に寄与することを目的とし、行政機関、スポーツ関係、福祉関係、教育機関等と連携協定を締結しています。この連携協定を通じ、地域形成および発展に向けた取り組みを推進しています。

※令和元(2019)年5月1日現在

施設紹介

実践食育研究センター



実践食育研究センターは、自然豊かな東播磨地域唯一の大学である本学の特性を活かし、播磨地域一帯の食文化や、栄養・健康に着目した研究・教育を通して、地域に貢献することを目的として、2010年に設立されました。実践食育研究センターでは、播磨地域の食に関する様々な活動の中心拠点としての機能を担い、「地域課題を解決できる栄養マネジメント研究とは何か」「食のスペシャリスト育成を通して地域に貢献できる人材養成とは何か」を事業や実践研究を通して追求しています。栄養マネジメント学科教員が中心となり、学生たちとともに様々な活動が行われています。

専用サイト
<http://www.hyogo-dai.ac.jp/research/foodeducation/>

●本学教員の近刊図書●

●地域福祉の原理と方法 第3版

社会福祉学科 田端和彦 2019年 2月発行
 学文社/共著
 井村圭壯・相澤謙治 編著

地域福祉を学ぶ教科書として基礎的な分野を網羅。担当は財政や社会保障など財源に関する章。

●現代社会福祉概説 改訂版

社会福祉学科 小倉毅 2019年 4月発行
 ふくろう出版/共著
 松井圭三・今井慶宗 編著

身近な生活問題、現実を中心に据え、私たちの生活を保障する制度、サービス等について分かりやすく解説。社会福祉士や精神保健福祉士等を目指す学生はもちろんのこと、広く一般の方にもお薦めしたい一冊。

●NIE介護の基本演習

社会福祉学科 小倉毅 2019年 4月発行
 大学教育出版/共著
 松井圭三・今井慶宗 編著

NIE(教育に新聞を)の手法を借りて、新聞記事の中から高齢者に関する法制度の現状、課題、事例や介護の環境等をひもとき、自分なりの意見、感想をワークブックに記入することにより、「介護の基本」を学ぶ。

ありがとうございます。プロフェッショナルへ。

～タグライン策定の意義～

このタグラインは、私たち兵庫大学の教育に込めた思いを表現したものです。建学の精神の「和」を大切に、感謝、寛容、互譲の心と高度な技術を併せもった人材の育成を学内外の多くの方々にお約束する内容を表明しています。

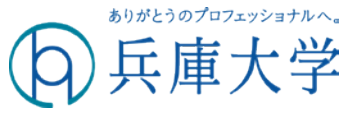
～「タグライン」に込める想い～

「ありがとう」に
 あふれる人生を送ってほしい、
 それが私たちの願いです。

あらゆることに感謝の念を抱きながら、
 仕事をさせていただくこと。
 他者にこころを寄せ、
 おたがいに認め合い大切にしようこと。
 そして、他者とおたがいに譲りあい、助けあうこと。

すると、やがてあなた自身が
 「ありがとう」という感謝の言葉を
 いただくことができる専門家となります。
 それこそが、私たちが目標とする
 “ありがとうのプロフェッショナル”なのです。
 私たちはあなたの一生を支える力を育みます。

生きる力に変わる学びを、あなたに。



(大学公式サイト)

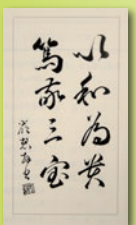
読者アンケートのお願い

今後のよりよい広報誌づくりのため、次のアンケートフォームより皆さまのご意見をお聞かせください。
http://www.hyogo-dai.ac.jp/guide/inquiry/post_27.php



編集後記

今回の「和(なごみ)」は、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに先駆けて、「地域×健康」をテーマに制作を進めてまいりました。手に取っていただいた方々に、何か1つでも共感や感動が伝わると幸いです。(Y)



表紙「和」
 学園創設者 河野 巖想 書
 「以和為貴 篤敬三寶※1」から一字引用
 ※1 「和を以て貴しとなし、篤く三宝を敬え」十七
 条憲法には和を大切に、三宝を敬うようにとあります。
 三宝は仏教における仏(覺者)、法(教え)、僧(仏と法を大切に
 する人)の三つの宝です。